

JP132 鹿野川ダム (かのがわだむ)

愛媛県：大洲市、西予市

位置	N 33° 26′ E 132° 42′
面積	1,216ha

環境構成

鹿野川湖は肱川水系の上流部に作られたダム湖である。周辺の林はかつて、薪炭林として利用されてきたため、クヌギやアベマキ、コナラなどが多い。炭の需要が減少した現在では、しいたけ栽培の原木林として利用されている。また、アラカシやスダジイなどの常緑樹も多い。ダム湖沿いに道路があり、車で移動しながらの観察が可能である。



写真提供：井上勝巳

選定理由

A4i	オシドリ
-----	------

保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

県指定鳥獣保護区（鹿野川ダム周辺）、都道府県立自然公園（肱川県立自然公園）、自然環境保全地域

保全への脅威

・バス釣りボートの湖面での走行により、越冬しているオシドリが攪乱される。

（従来、鹿野川湖はヘラブナの釣り場として、全国的に有名なポイントである。ヘラブナ釣りは、特定の場所にボートを浮かべてほぼ動かず、静かに釣るのであまり問題にはならなかった。しかし、船外機をつけたバス釣りのボートがダム湖を走行するようになった。キャストイングを何度か行いポイントを高速で移動したり、沢の奥まで入ったりするため、岸で休息中のオシドリが追い立てられる。）

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
減っている
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
＜調査データの入手方法＞
環境省のガンカモ類の生息調査 http://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo_top.html
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化がある
詳細、具体例等：鹿野川湖湖面利用ルール（四国地方整備局）が、平成26年4月からルールの周知を行いながら試行を開始し、平成27年4月から本格運用されている。ここには、狭いながら、エンジン付きボートの利用区域を規定したり、オシドリに配慮する「オシドリ保護区域」が設定されたりしている。どのように湖面の利用者に守られていくか、今後を注視していきたい。
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：悪い（40～70%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：無
ただし、湖面利用ルールが制定されている。
<http://www.skr.mlit.go.jp/yamatoso/info/komen-rule.html>

保全活動

- ・ 環境管理：実施者（やませみ22）
内容：地域の自然保護団体（代表や主だったものは、日本野鳥の会愛媛の会員）が、不定期で観察会を行っている。
- ・ モニタリング調査：実施者（愛媛県、日本野鳥の会愛媛）
内容：環境省のガンカモ類の生息調査を愛媛県から委託を受けて、日本野鳥の会愛媛が行っており、会員が鹿野川ダムもガンカモの生息数の調査を行っている。

IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- ・ やませみ22

見られる鳥

1,000～5,000羽程度のオシドリが越冬していたが、近年急激に越冬個体数が減少している。ダムの周囲にアオバトの越冬個体が多いことも特筆される。冬期には、オオタカやハイタカ、ノスリなどの猛禽類に遭遇する可能性が高い。

留鳥	カイツブリ、トビ、オオタカ、ヤマセミ、カワセミ、アオゲラ、カケス
夏鳥	ハチクマ、サシバ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウ

冬鳥

カワウ(ごく一部が越夏)、オシドリ(ごく一部が越夏・繁殖記録なし)、マガモ、カルガモ、トモエガモ、ハイタカ、ノスリ、アオバト(ごく一部が越夏)、ルリビタキ(平地では冬鳥)アオジ

関連団体・自治体・施設等

- ・日本野鳥の会愛媛

